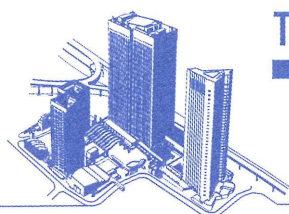




SERVICE Above Self
超我の奉仕
2005～2006年度・国際ロータリーテーマ
カール・ヴィルヘルム・ステンハマー会長



THE ROTARY CLUB OF TOKYO NEW-SOUTH

東京新南ロータリークラブ

No.881 / 2005.09.30

例会日 / 毎週金曜日 12:30
例会場 / 東京全日空ホテル Tel 03-3505-1111
事務局 / 〒107-0052 東京都港区赤坂2-19-8
赤坂2丁目アネックス3F
Tel / 03-3505-5976
Fax / 03-3505-6004
E-mail / new-south@h9.dion.ne.jp
http://www.h3.dion.ne.jp/~newsouth

Weekly Report

東京新南ロータリークラブ週報

「全員参加で実行しよう」

2005～2006年度・東京新南ロータリークラブテーマ / 小杉修造会長

●本日の例会 / 2005年9月30日第902回例会

臨時総会
卓話

「カラー印刷の源流と木版画集『蘭花譜』」

三浦印刷株式会社代表取締役社長 三浦久司氏
(紹介者 荒木会員)

●前回報告 / 9月16日第901回例会

会長報告: ①本日は第2750地区千代田グループ・ガバナー補佐をお迎えして、第3回クラブ協議会を開催いたします。ご来賓のお二人をご紹介します。

千代田グループ・ガバナー補佐 永富邦雄氏
(東京新橋 RC)

千代田グループ・グループ幹事 鈴鹿規子氏
(東京レインボー RC)

②リーダーシップ・プランについて

土屋クラブ奉仕委員長よりリーダーシップ・プランの意義、必要性と委員会構成、リーダーシップ・プランのもとでの四大奉仕委員会の役割について解説して頂いた。(後記 第3回クラブ協議会を参照)

③9月30日の例会に臨時総会を開き、クラブ細則改正をお諮り致します。皆様のご出席をお願い致します。

幹事報告: 市川伊三夫ガバナー公式訪問

東京南・東京新南RC合同例会のご案内

日時 10月20日(木) 12:30～13:30

例会場 東京會館 12F ロイヤルルーム

千代田区丸の内 3-2-1 TEL 03(3215)2111

例会前(11:00～12:00)に、ガバナー・会長・会長エレクト・幹事懇談会を12F コレニアルームで開催。

皆様のご出席をお願い致します。尚、10月21日(金)の例会は10月20日(木)の合同例会に振替えました。

出席報告: 会員52名 / 出席31名・欠席21名(出席規定免除者5名)

ビジター 2名・ゲスト1名

●次週予告 / 10月7日第903回例会

クラブ創立19周年記念例会(1986.10.3創立)

◎卓話予定

「ビールの話いろいろ」

サッポロホールディングス株式会社 野口 聰氏
常勤監査役

(紹介者 荒木会員)



9月16日 / 12件25,000円 / 本年度累計303,000円

多額のご寄付を有難うございました。(敬称略)

小杉修造 / ガバナー補佐永富さん、幹事の鈴鹿さんをお迎えして。土屋東一 / ガバナー補佐永富さんを歓迎いたします。渡部さんおみやげありがとうございました。福島賢哉 / 永富ガバナー補佐様、鈴鹿グループ幹事様、本日はお忙しいところ、クラブ協議会宜しくお願い申し上げます。馬場一廣 / 永富さん、鈴鹿さん本日はクラブ協議会ご出席ありがとうございます。村山公士 / 本日のクラブ協議会よろしく願いいたします。渡部一元 / 暫く海外に行っていました。又、皆さんと一緒に活動したいと思います。武下朗 / 岩上さんでは逃げられません。ご苦労様です。庄司泰典 / 岩上さんの笑顔に誘われて。武内光晴 / 食欲の秋です。まずは、歯の健康チェックから。西澤民夫 / 岩上さん、いつも火曜会でありありがとうございます。竹本孝三郎 / 岩上さんの関所に捕まりました。岩上義明 / 竹本さん、尾上さん、椎名さん、先日のゴルフではありがとうございました。勝った分は、ニコニコに寄付いたします。

千代田グループ永富ガバナー補佐公式訪問 第3回クラブ協議会

テーマ 「例会の充実と委員会活動の活性化

～奉仕プロジェクトの取組み～」

日時 2005年9月16日(金) 例会後 13:10～14:40

会場 東京全日空ホテル B1 プリズム

来賓 千代田グループ・ガバナー補佐 永富邦雄氏

千代田グループ・グループ幹事 鈴鹿規子氏

出席者 荒木、馬場、福島、橋本、入沢、石井、岩上、小杉、松永、村山、西澤(正)、西澤(民)、大日方、尾上、小原、椎名、清水、庄司、武下、田村(昭)、土屋、佃、渡部、吉田(用)、吉岡(25名敬称略)

司会 福島幹事

1. 会長挨拶

例会の充実と委員会活動の活性化

会長 小杉修造

上記のテーマを取り上げた理由。本年度は赤坂RCに名称の変更を予定し、次年度はクラブ創立20年に当たる、節目の年。また各年度の会長・幹事及び増強委員長さんの努力にもかかわらず、この3年間で29名の退会者が出たという現実がある。会長として年度を預かるに当たり今年度の目標を設定した。

①会員増強 ②例会の充実。

(裏面に続く)

RI会長ステンハマー氏のテーマは「超我の奉仕」というロータリー永遠のテーマを掲げ、地区市川ガバナーは10の重点目標の第一に「会員増強」をあげられた。それぞれが皆ロータリーの原点であり、以上のテーマを全員参加で実行しよう。

「例会の充実」はクラブ奉仕委員会の各委員会の協力が必要。長期の例会欠席者はやがては退会の道が待っている。例会出席は奉仕活動の原点であり、ある人は例会は人生の道場とも云う。また楽しくなければロータリーではない。クラブ管理がしっかりしなければ、他の委員会活動もおぼつかない。委員会活動ではあえて「奉仕プロジェクト」をとりあげてみた。

本年はあえて「例会の充実と委員会活動の活性化」をクラブ協議会のテーマとして取り上げて考えてみよう。

2. クラブ・リーダーシップ・プランの意義

①会員増強と親睦を含めたクラブ奉仕活動の充実と「クラブ・リーダーシップ・プランの意義」について

クラブ奉仕委員長 土屋東一

1. クラブ・リーダーシップ・プランの意義

このプランは、ロータリークラブにとっての推奨された管理の枠組みであり、このプランには過去100年間の世界中の効果的なロータリークラブの最良の実績に基づいたいくつかの運営過程が含まれているとされる。このプランは意思決定における同意形成、指導者及びプロジェクト(事業)における継続性、そしてすべての会員を奉仕、親睦、研修に参加(関与)させることを強調している。

2. クラブ・リーダーシップ・プランの必要性

クラブにとって標準的な管理機構を持つということは、リーダー達が管理運営に時間をとられるよりも奉仕活動に集中できることを容易にし、さらにより良い一貫した引継ぎ計画と継続性を確保できることにあるとする。

3. このプランのベストプラクティス(最善の実践方法)の例として以下のようなものがあるとされている。

- (1)効果的なクラブが持つ要素に取り組む長期目標、及びそれらを支える年次目標を策定する。
- (2)定期的にクラブ協議会を招集する。
- (3)クラブの活動や親睦にすべてのクラブ会員を参加させる。
- (4)連絡伝達(コミュニケーション)の円滑な方法を維持する。
- (5)指導力の継続性を確保する。
- (6)定期的かつ首尾一貫した研修を提供する。

4. ロータリークラブの委員会構成

このクラブ委員会構成は、推奨ロータリークラブ細則に基づいている。クラブ委員会は、クラブの長期計画の遂行にあたるものであり、クラブの常任委員会は以下の通りであるとしている。

- (1)会員増強委員会—会員の勧誘と退会防止の包括的計画を立案、実施する。
- (2)クラブ広報委員会—ロータリーに関する情報を一般の人々に提供し、クラブの奉仕プロジェクトや活動を推進するための計画を立案、実施する。
- (3)クラブ管理運営委員会—クラブの効果的な管理運営に関する活動を行う。
- (4)奉仕プロジェクト委員会—地元社会や他国の地域社会のニーズを取り上げた教育的、人道的、職業的プロジェクトを立案、実施する。
- (5)ロータリー財団委員会—資金寄付及びプログラム参加の両面からロータリー財団を支援するための計画を立案、

実施する。

5. クラブ・リーダーシップ・プランのもとでの4大奉仕の役割

このプランのもとでは、四大奉仕(クラブ奉仕、職業奉仕、社会奉仕、及び国際奉仕)は依然ロータリーの活動の中心であり、クラブの奉仕活動がバランス良く保たれ、ロータリーの綱領(目的)があらゆる面で達成されるように図られることになる。四大奉仕により、ロータリークラブはロータリーの主要目的であるService Above Self に焦点をあわせることができるのであり、クラブは4大奉仕の各部門に取り組むための年間目標を設定すべきであるとされている。

②「プログラム委員会の取組み」

プログラム委員長 荒木昭文

当クラブは2005年7月、9月の理事会に於て、新しい推奨クラブ細則を承認し、クラブ・リーダーシップ・プラン採用の方向となりました。

将来クラブ委員会の基に五つの常任委員会が設置されますと、クラブ管理運営委員会の枠組の中で、プログラム委員会は、出席委員会、親睦活動委員会、会場委員会(SAA)等と一緒に位置づけとなり、クラブの効果的な管理運営に関する活動を実施していくこととなります。これまでも、またクラブ・リーダーシップ・プランの基であろうとも、ロータリー活動の基本は例会にあることは不変であります。

プログラム委員会は、その例会(1時間)の後半分(30分)を担当することも変わりありません。会員相互の親睦と会員の皆様に四大奉仕委員会に関する理解を深めて頂き、魅力的で品位あるプログラムの提供を担う、大変責任の重い委員会です。

会員にとってクラブの例会が楽しく為になるかどうかは、正にプログラム委員会の活動、卓話内容に係わっていると言っても過言では有りません。

本年度のプログラム委員会の活動計画は、

1. RIテーマ「超我の奉仕」またクラブテーマ「全員参加で実行しよう」につながるようなプログラムを心掛けております。
2. プログラム委員全員は基より、全会員に卓話者の推薦をお願いし、全員参加で卓話プログラム作成に高い意識をもっていただくと共に、クラブ活動に活発に関与していただくようにしております。
3. 各委員会と連携し、ロータリー月間、夜間例会、正月例会等は目的にあったものを計画することです。例えば、11月4日には国際奉仕委員会によるロータリー月間に因んだ卓話が予定されており、又12月9日は社会奉仕委員会企画のC.W.ニコル・アフアの森財団の理事長C.W.ニコル氏の卓話が予定されております。ロータリー情報委員会等を始め各委員会に対し、積極的に卓話を利用していただき、会員のための継続的教育や情報提供の機会としていただくよう呼び掛けております。
4. 当クラブ会員(特に年配会員等)に二回目のインシエーションスピーチをお願いし、新旧会員の交流の一助となればと考えております。

本年度上期のプログラム委員会卓話スケジュールは、多数の会員、委員会の積極的なご協力によりまして年度初めの7月にはほぼ予定表が埋まりました。正に、クラブテーマ「全員参加で実行しよう」を実践出来たものと思っております。

～クラブ協議会報告は次週号に続きます～